

川崎じもと応援券 追加資料

1 500円券とした場合のコスト・期間

[設定]

- ・500円×12枚の応援券（6,000円分）を1冊5,000円で販売
- ・100万冊発行
- ・1人最大5冊まで

印刷・郵送・換金等にかかる費用 約2億7,000万円の増額
印刷スケジュール 約3週間の印刷期間の延長

2 近隣自治体の利用アンケート（電子決済は60歳以上の利用が10%というデータ）

別紙1のとおり （平塚市議会議事録より抜粋）

3 平成27年度プレミアム商品券・令和元年度プレミアム付商品券取扱店舗アンケート回答比較（券種）

別紙2のとおり

4 第1弾（1次、2次募集）における申込者数

	インターネット	はがき	申込み計
申込者数（人）	115,279（89.9%）	13,013（10.1%）	128,292
希望冊数（冊）	422,683（89.2%）	51,193（10.8%）	473,876

令和2年12月定例会（第4日） 本文 2020-12-08

○9番 渡部 亮議員 9番渡部亮です。同僚議員と重なる部分もございますが、通告に従い、質問いたします。

1、キャッシュレス決済の推進。

ひらつか☆スターライトポイントは、想定外の売行きで、コロナ禍における消費喚起を図り、市内経済の活性化を後押しするという目的は達成できたのではないのでしょうか。これも、職員の皆様や商工会議所など関係者の皆様の御尽力のたまものと存じます。

一方で、市民の皆様から不満の声が上がっているのも事実です。例えば、市民限定販売で予算が余っているということは明らかに周知不足、高齢者など、スマホを持っていない方が買えない、市民のために使ってほしかったといった不公平感が生じています。

新型コロナウイルスの感染拡大は依然続いております。この先、また地域経済対策が行われなくても限りません。また、将来的に地域通貨への展開もお考えのようですので、この事業を一過性のものにならないためにも検証が必要であると考えます。

そこで、以下6点質問いたします。

(1)購入者数の内訳。

(2)市内・市外の割合。

(3)65歳以上の高齢者の割合。

(4)事業の周知方法。

(5)キャッシュレス決済になじみのない高齢者などにどのように利用推進を図ったのか。

(6)コールセンター等には相当数の苦情があったと聞いています。どのような意見があったのか。

2、公共空間の活用。

コロナ対策の一番は、感染が広がりやすい環境をいかに回避するかというものです。3密を回避するために、飲食店などでソーシャルディスタンスを確保すれば、単価をそれだけ高めなければ経営が成立しなくなっていくわけです。

そういった中で、活用可能なものがあります。それは、道路であり、公園であり、広場空間です。

ホストタウン相手国であるリトアニアでは、レストランやバーが路上に設置された屋外客席で営業しており、2人がけや家族連れの客席のみ政府が許可しているというニュースを目にしました。

これは、エリアマネジメントにおいては非常に重要な要素であることは間違いありません。しかも三方よしです。店舗にとっては経済的にプラスであり、市民にとってはこの情景そのものがランドスケープであり、仲間と時間を過ごす空間でもあり、自治体にとっては使用による歳入を生んでくれます。

そこで、以下2点質問いたします。

(1)国土交通省は、テイクアウトやテラス営業などのための道路占用許可基準の緩和措置

を来年3月31日まで延長しました。本市の対応状況はいかがでしょう。

(2)コロナ禍で出店機会が減り、苦境に立つキッチンカー事業者の支援と新たな財源確保を図るため、藤沢市や茅ヶ崎市のように、市庁舎本館前等にキッチンカーを出店できないでしょうか。御見解を伺います。

3、中心市街地の活性化。

新しい生活様式において、自転車の活用が推奨されています。本市の1日当たりの放置自転車の台数は、平成22年度の1415台から令和元年度には31台に、年間撤去台数は、平成22年度の5656台から令和元年度には1896台に大幅に減少しており、これまでの駐輪対策の成果が表れていると言えます。

一方で、自転車で買物に来るお客様を逃している側面もあり、市民や商店街振興組合から、店舗前に自転車を置きたいという声が上がっているのも事実です。様々な経済対策によって、商店街には人手が戻りつつあります。しかし、このままでは自転車のお客様を逃してしまいます。

そこで、放置自転車と買物客の自転車を一くくりにしなくてもよいのでしょうか。放置自転車の定義として、平塚市自転車等の放置防止に関する条例第2条第6号には、「自転車等が自転車等駐車場以外の場所に置かれている、又は自転車等駐車場であっても適切に置かれていない状態にあり、かつ、当該自転車等の利用者が当該自転車等を離れているため、直ちに当該自転車等を移動することができない状態をいう」とあります。路上を駐輪場とみなしたり、店舗の管理下にあつて、すぐに移動できるものは放置自転車とみなさないといった運用はできないでしょうか。

例えば八王子市は、8年ほど前から、八王子駅北口西放射線ユーロードに、サインラックと呼ばれる可動式駐輪器具を配備しています。これは、各商店の営業時間内に限り、自転車で来店された方が無料で短時間利用できるものです。導入について御見解を伺います。

あるいは、湘南スターモール商店街振興組合から、安心買物駐輪社会実験の要望が出ています。自転車で気軽に買物に来ていただける仕組みづくりを推進するため、希望する店舗に駐輪カードを5枚配布し、お客様の自転車の目につくところにかけてもらい、駐輪カードがかかっている自転車は、30分まで放置自転車撤去の対象外とするものです。社会実験の実施について御見解を伺います。

○津田勝稔産業振興部長 9番渡部亮議員の御質問にお答えします。

1、キャッシュレス決済の推進について、6点の御質問です。

1点目の購入者数の内訳、2点目の市内・市外の割合、3点目の65歳以上の高齢者の割合は、関連しますので、一括して御答弁します。

まず、購入者の内訳は、10月5日からの市民限定販売が1万1766人、10月19日の一般販売が1万992人、11月3日の1回目の追加販売が8418人、11月13日の2回目の追加販売が8424人、合計3万9600人となっております。

市内・市外の割合は、11月に実施した利用者アンケートの結果で、市内が93.1%、市外

が 6.9%となっております。

また、65 歳以上の高齢者の割合は、市民限定販売の結果で 13.3%、利用者アンケートの結果では、10 歳ごとの集計となりますが、60 歳以上の割合として 11.3%となっております。

次に、4 点目の事業の周知方法です。本市の広報紙やホームページ、SNS のほか、加盟店、販売店のポスターやのぼり、タウン誌等の民間広告、駅前キャンペーンなどにより周知を図りました。

次に、5 点目のキャッシュレス決済になじみのない高齢者などへの対応ですが、アプリのダウンロードや操作方法などの不安をできる限り解消していくことが大切であると考え、まず、実際の操作方法などを説明した利用者説明会を中央公民館で実施しました。

また、コールセンターによる電話相談や、高齢者よろず相談センターをはじめとするポイント販売店による支援、まちかど広場を利用した移動相談所の開設、市役所窓口での職員対応など、一人一人の状況に応じたきめ細かな対応を図ってまいりました。

最後に、6 点目のコールセンター等に寄せられた意見の内容ですが、コールセンター等にいただいた問合せの多くは、事業に参加するためのアプリのダウンロードや使用方法についての問合せでした。しかしながら、一部の方からは、自分は事業の存在を知らなかったので周知をしっかりと行ってほしい、スマートフォンを持っていない人も参加できるようなことも考えてほしい、購入したい人みんなが買えるようにしてほしいなどといった御意見も寄せられております。

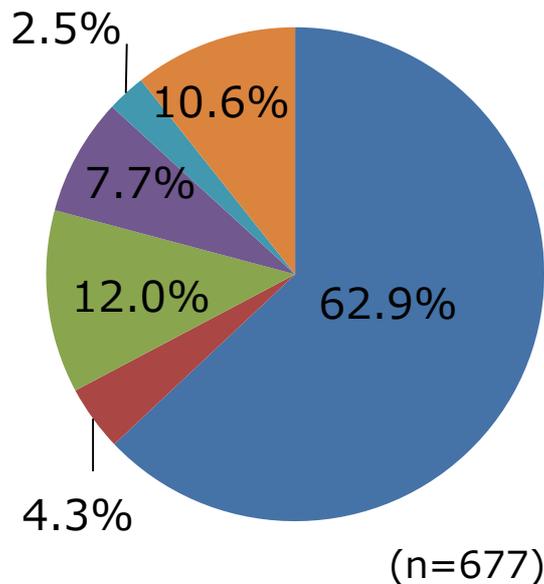
以上でございます。

平成27年度プレミアム商品券・令和元年度プレミアム付商品券 取扱店舗アンケート回答比較（券種）

問 商品券の券種として適切だったと思うものを選んでください。

【平成27年度プレミアム商品券】

■ 1,000円×12枚	426
■ 1,000円×11枚 + 500円×2枚	29
■ 1,000円×10枚 + 500円×4枚	81
■ 500円×12枚	52
■ その他（具体的な希望券種の記載なし）	17
■ 無回答	72



【令和元年度プレミアム付商品券】

■ 100円券	3 (2%)
■ 500円券	96 (60%)
■ 1,000円券	60 (38%)

